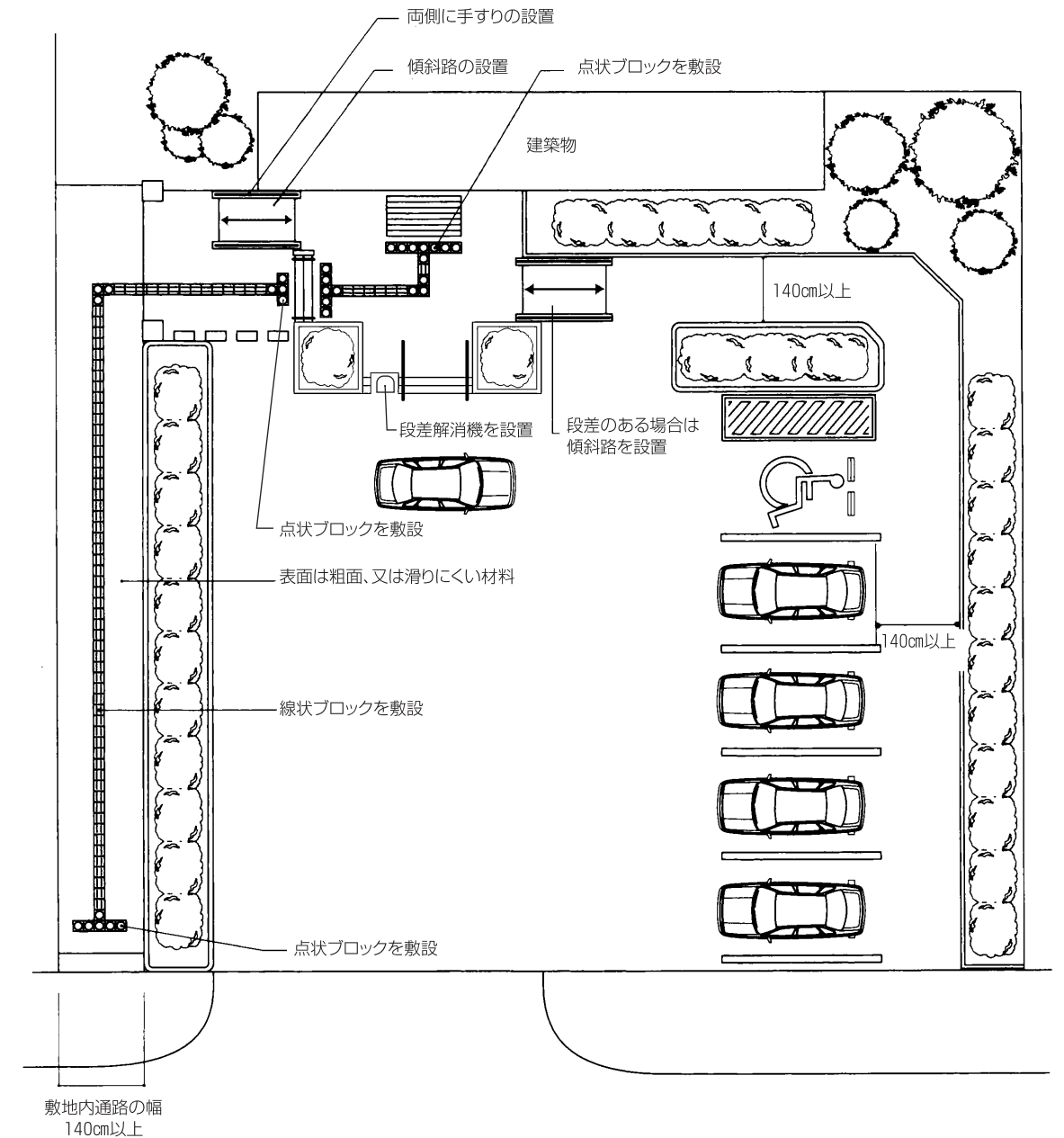


8 敷地内の通路

■基本的な考え方■

道路等から建築物の出入口までを結ぶ敷地内の通路は、高齢者や身体障害者等すべての人が円滑かつ、安全に利用できるように配慮し、できる限り健常者と同じような経路で建築物に到達できるように配慮する。

敷地内の通路の整備例 (図1)



整備基準

8 敷地内の通路

敷地内の通路は、次に定める構造とすること。

- (1) 表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げること。
- (2) 排水溝を設ける場合においては、車いすのキャスター、松葉杖等が落ち込まない構造の溝ぶたを設けること。
- (3) 段を設ける場合においては、3の項〔階段〕(1) から (5) までに定める構造に準じたものとする。
- (4) 直接地上へ通ずる1の項〔出入口〕に定める構造の各出入口から当該公益的施設の敷地の接する道若しくは空地（建築基準法第43条第1項ただし書に規定する空地に限る。以下「道等」という。）又は車いす使用者用駐車施設に至る敷地内の通路のうち、それぞれ1以上の敷地内の通路は、次に定める構造とすること。
 - ア 幅員は、1.4メートル以上とすること。ただし、構造上の理由によりやむを得ない場合は、区間50メートル以内ごとに車いすが転回することができる構造の部分の設けた上で、1.2メートル以上とすることができる。
 - イ 高低差がある場合においては、(6) に定める構造の傾斜路及びその踊場又は車いす使用者用特殊構造昇降機を設けること。
- (5) 公益的施設（自動車庫を除く。）の直接地上へ通ずる1の項〔出入口〕に定める構造の各出入口から道等に至る敷地内の通路のうち、それぞれ1以上の敷地内の通路は、次に定める構造とすること。
 - ア 線状ブロックを敷設し、又は音声により視覚障害者を誘導する装置その他これに代わる装置を設けること。
 - イ 次に掲げる部分には、点状ブロックを敷設すること。
 - (ア) 車路に接する部分
 - (イ) 車路を横断する部分
 - (ウ) 傾斜路並びに段の上端及び下端に近接する敷地内の通路及び踊場の部分
 - (エ) 道等に接する部分
- (6) 敷地内の通路に設けられる傾斜路及びその踊場は、2の項〔廊下等〕6の (1) から (7) までに定める構造とすること。

8 敷地内の通路

不特定かつ多数の者が利用する敷地内の通路は、次に定める構造とすること。

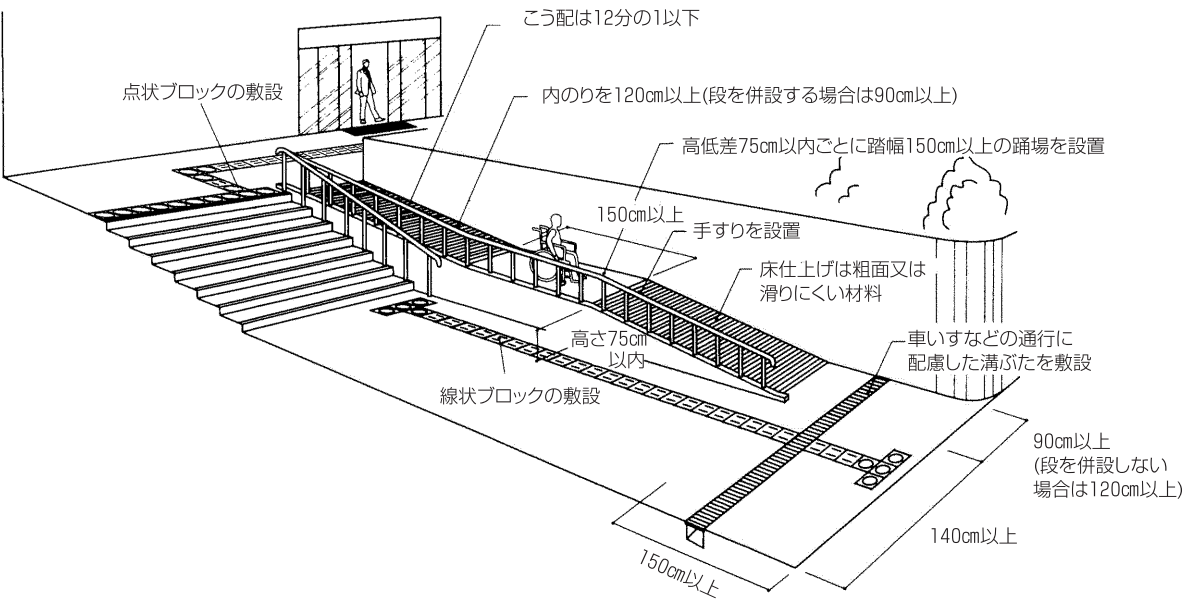
- (1) 表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げること。
- (2) 排水溝を設ける場合においては、車いすのキャスター、松葉杖等が落ち込まない構造の溝ぶたを設けること。
- (3) 歩道と車道を分離するよう努めること。
- (4) 段を設ける場合においては、3の項〔階段〕1の (1) から (9) までに定める構造に準じたものとする。
- (5) 直接地上へ通ずる1の項〔出入口〕1に定める構造の各出入口から当該公益的施設の敷地の接する道若しくは空地（建築基準法第43条第1項ただし書に規定する空地に限る。以下これらを「道等」という。）又は車いす使用者用駐車施設に至る敷地内の通路は、次に定める構造とすること。
 - ア 幅員は、1.8メートル以上とすること。
 - イ 高低差がある場合においては、(7) に定める構造の傾斜路及びその踊場又は車いす使用者用特殊構造昇降機を設けること。
- (6) 直接地上へ通ずる1の項〔出入口〕1に定める構造の各出入口（自動車庫に設けられるものを除く。）から道等に至る敷地内の通路は、次に定める構造とすること。
 - ア 線状ブロックを敷設し、又は音声により視覚障害者を誘導する装置その他これに代わる装置を設けること。
 - イ 次に掲げる部分には、点状ブロックを敷設すること。
 - (ア) 車路に接する部分
 - (イ) 車路を横断する部分
 - (ウ) 傾斜路並びに段の上端及び下端に近接する敷地内の通路及び踊場の部分
 - (エ) 道等に接する部分
- (7) 敷地内の通路に設けられる傾斜路及びその踊場は、2の項〔廊下等〕7の (1) 及び (3) から (8) までに定める構造並びにこう配が15分の1を超えない構造とすること。

整備基準の解説	
<p>●整備の対象</p> <p>建物出入口から①道等に通ずる通路、②屋外の車いす使用者用駐車施設に至る通路を車いす使用者や視覚障害者等が利用できる構造とする。</p> <p>○すべての敷地内の通路が満たすべき共通性能として、①滑りにくい仕上げとすること。②段を設ける場合につまずきにくい構造とすること。</p> <p>○一以上の経路上の敷地内の通路については、①車いす使用者が通行可能な構造とすること。②視覚障害者誘導用ブロック（線状ブロック及び点状ブロック）を敷設すること。</p>	
項 目	解 説
(2)床面	○敷地内の通路には原則として排水溝等は設けない。
(4)ア 幅	○通路の幅140cmは、車いすが転回（180°方向転換）できるための寸法。 ⇨図1参照
(5)誘導	○視覚障害者用の線状ブロック、点状ブロックの敷設が求められるのは、建物出入口から道等に通ずる通路であり、建物出入口から車いす使用者用駐車施設に至る通路には、当該通路を通行する視覚障害者に運転手等の視覚障害者以外の者が必ず同行すると考えられるため求めている。
ア 線状ブロック等	○建物の敷地境界から建物出入口まで、視覚障害者が容易かつ安全に到達できるように①線状ブロックの敷設、②手すりの設置、③触知図の設置、④音声等による誘導等を適宜行つ。

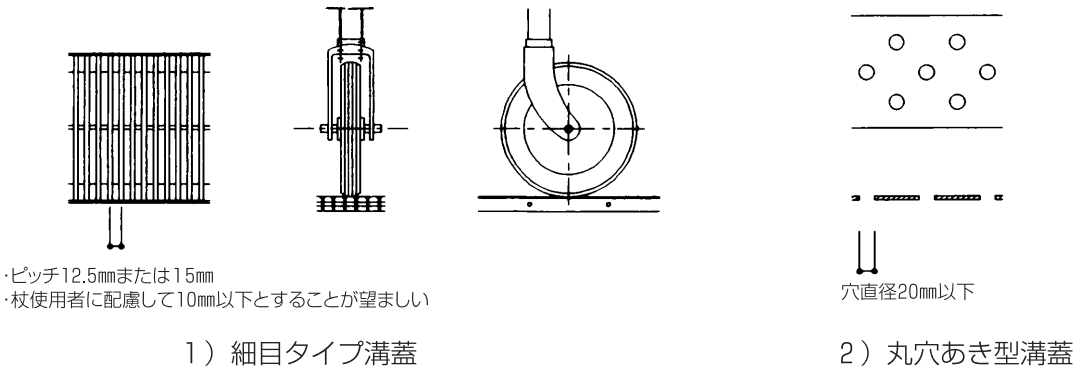
目標となる指針の解説	
<p>●整備の対象</p> <p>不特定かつ多数の者が利用する建物出入口から①道等に通ずる通路、②屋外の車いす使用者用駐車施設に至る通路を車いす使用者や視覚障害者等が利用できる構造とする。</p> <p>○すべての敷地内の通路が満たすべき共通性能として、①滑りにくい仕上げとすること。②段を設ける場合につまずきにくい構造とすること。</p> <p>○すべての敷地内の通路については、①車いす使用者が通行可能な構造とすること。②受付等までの廊下等には、視覚障害者誘導用ブロック（線状ブロック及び点状ブロック）を敷設すること。</p>	
項 目	解 説
(5)ア幅	○通路の幅180cmは、車いす同士がすれ違いやすく、車いすが回転しやすい寸法。
(7)こう配	○1／15のこう配は、屋外における雨がかり等を考慮したもの。

配慮事項	
項 目	解 説
(2)溝ぶたの構造	○①格子型で細目タイプ（ピッチ12.5mm又は15mm×100mm程度）、②格子型で隙間の最大寸法が短辺方向9mm以下、③格子型でピッチが短辺方向20mm以下で長辺方向50mm以下、④丸穴あき型で、穴直径の最大寸法が20mm以下で表面が滑りにくいもの等とし、長辺方向が進行方向と直角になるように配置する。 ⇨図2参照
(6)傾斜路	<p>○手すりは、傾斜路の上端及び下端では45cm以上水平に延長し、端部は衝突時の危険性を少なくする等のため曲げて納め、現在位置、誘導方向等を点字で表示する。「配慮事項③手すり（P.88）」参照。</p> <p>○通路の凍結や積雪を防止するため、融雪装置や上屋の設置等の配慮をする。</p> <p>○敷地が広い場合は、遠くからでも傾斜路の位置がわかるように案内標示をする。⇨図3参照</p>

敷地内の通路の整備例



溝蓋の仕様（車いすのキャスターと溝蓋の拡大図）（図2）



傾斜路の位置案内標示例(図3)



機械式昇降装置の例

